

月刊  
JMITU

# オオカ



2月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部  
セガ グループ分会 2019年発行

No.410

# 2019年 春闘・夏季一時金要求提出

## すべての人達が大幅賃上げを！

2月20日、私たちJMIT  
Uセガグループ分会は、春闘・  
夏季一時金要求を、SHD、S  
IC、SLSの3社に提出しま  
した。

要求項目は以下の通りです。

- ・本人給を2万円、評価給を3万円引き上げること。評価給テーブルの上限を3万円引き上げること。アルバイト・パートタイマーの時給を一律200円引き上げること。査定しないこと。

- ・昇格の基準を明確にし、社員が納得できる昇格制度にすること。

- ・人事制度において評価給がテーブルの上限に達した場合、昇格試験の機会を与えること。

- ・新人事制度を廃止し、導入前の賃金体系に戻すこと。

- ・高齢者再雇用における有期契約社員の給与を、定年時の月額基準内賃金の80%で算定し支給すること。
- また、目標設定をなくし、査定を行わないこと。

- ・アルバイト、パートタイマー、派遣・請負社員を本人の希望があれば正社員にすること。

- ・リロポイントを年間5万円にすること。

- ・家族手当を妻3万円、子2万円とすること。

- ・アルバイト、パートタイマーに退職金制度を設けること。

- ・弁当代補助を一カ月一万円支給すること。

- ・開発職に開発手当を5万円支給すること。

(SHD・SICのみ)

- ・2019年夏季一時金として、賞与資格別基準額を2万円底上げし、係数4・0を支給すること。ただし査定を行わないこと。及びパートタイマー、アルバイト従業員にも、夏季一時金を支給すること。

## 本人給 評価給の

## 底上げを！

昨年は、通常昇給の他にベースアップがあり、通常とあわせると3%の賃上げがされました。しかし評価給の上限に達した方は、ベースアップのみで、通常昇給がありませんでした。

昇格をしなければ賃金は上がりません。会社は昇格の基準があるといいますが、曖昧な基準で、満たしていても上司の推薦がなければ昇格できません。組合の要求はすべての人が賃上げされる事です。

今年も昨年同様「本人給、評価給の底上げ、昇格の基準や評価給の上限に達した人への昇格試験の機会を与えること。」など新人事制度のネックになっている部分を変える要求をしていきます。

## 景気は緩やかに

### 回復したと言いつけやけど？

国民の暮らし最優先の経済政策を実現する、政治の転換が必要です。

### 賃金も消費も伸び悩み

安倍政権が1月29日に公表した月例経済報告で「景気は、緩やかに回復している」として2012年12月から始まった「景気回復」が「戦後最長になったとみられる」との判断を示しました。

国民の実感「回復」どころか、所得も消費も伸び悩み、貧困と格差が拡大して、景気は悪化しています。

だいたい、不正・偽装が相次ぐ政府の経済統計を使って、「景気回復」と言っても説得力がありません。安倍政権の経済政策「アベノミクス」の破綻は明白です。

安倍政権の月例報告は、「個人消費は、持ち直している」「設備投資は、増加している」などと、良い事づくめで書いています。国民の足元を見れば「改善」

しているという雇用は賃金の安い非正規が中心で、賃金は伸び悩み、消費は14年4月の消費税増税のあと、落ち込んだままです。

偽装が判明した厚生労働省の毎月勤労統計調査でも、現金

給与総額の伸びは再集計の結果、「公表値」から「修正値」で大幅に引き下がりました。

昨年1月から11月までの「修正値」の伸びはほぼゼロで

す。調査対象事業所を変えず共通のデータで計算した「参考値」で実質マイナスとなり、明らかに悪化しています。

持ち直しているという家計

消費も14年4月の増税前に比べ年間25万円も落ち込んでおり、消費不況は深刻です。少しでも安い物をと必死でやりくりしている国民から見ても「景気回復」などというのは政府と国民の意識の違いが大幅にずれていると思います。

「戦後最長」の「景気回復」どころか「戦後最長の」足踏みとというのが実態です。「アベノミクス」破綻は隠せません。

### 消費税増税など論外

異常な金融緩和と財政支出の拡大で、円安や株高を進めれば、企業のもうけが増え、「デフレ」からの脱却や経済成長が実現するというのが「アベノミクス」のもともとの筋書きでした。

ところが大企業のもうけはため込みに回り、国民の暮らしはいつこうに良くなりません。賃金が上がらないのに増税や社会保険料の引き上げで、国民の消費に回せるか処分所得は、大幅に減少しています。

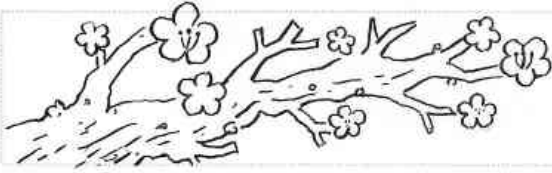
安倍首相が固執する10月からの消費税など論外です。



# 4こま漫画

川崎よしき





シヨートシヨート

## 出版記念会

仙洞田一彦

朝からどんよりと曇っていて、時折、雪が舞う日だった。

文学の同人で長い付き合いのある男が、これまでに書いた短編小説のいくつかをまとめて一冊にし、本を出した。その祝いの出版記念会が、K駅近くのホテルで行われる。寒さが堪える。小さい体をいっそう縮めて、わたしは会場に向かった。駅から近いところなので、持っていた傘をさす必要もなかった。

古くからある同人で、同人が初めて本を出した時は、自動的という感じで、出版を祝う出版記念会を開いた。二冊目以降の出版は、記念会を

行わなかった。自費出版だから、出す、出さないはまったく本人の意思に任されている。同人には一冊も出していない人もいれば、何冊も出版している人もいた。

今日の男は、同人誌に短編小説をいくつも書いて来たが、本にはしてこなかった。原稿の量は十分であるから、今回は「自選集」ということで、自分で選び出した小説だけをまとめた。

会場は大きいホテルの、小さな一室。十数人いる同人のなかには、久しぶりに顔を見る者もいた。出版記念の日だから、普段の同人の例会の日と違うので、無理を押ししても出て来る。

いつもの出版記念会とおなじで、出版した男の妻や子供、

孫らしき者まで来ているようだ。まったく見たことのない顔は、その男の文学以外の付き合いのある人だろう。全部で三十人位だった。

立食式で、壁側のテーブルに料理が盛られた器が並び、反対側には椅子が並べられていて、腰掛けられるようになっていて。立食とはいえ、集まってくる年齢層を配慮してあった。部屋の正面は少し高くなっていて、マイクスタンドがあり、背後には金屏風が立てられていた。

あらたまった場ではあるが、半分くらいは顔見知りだから緊張するほどのことはない。あらかじめ打ち合わせてあった通り、同人の一人が司会に立ち、同人の代表が挨拶した。見知らぬ顔が乾杯の音頭を取

ることになった。スーツ姿の男が、片手にビールの入ったグラスを持ち、場なれした感じで屏風の前に立った。自己紹介では主賓の男の兄ということだった。出席している一族を紹介してからの乾杯となった。挨拶が終わると、司会が「しばらくご歓談を」と言った。

その時に主賓の男の妻が、出席者の間を回って挨拶していた。わたしのところにも来た。わたしは主賓の男と年が同じくらいだから当然と言えば当然だが、亡くなったわたしの妻と同じくらいの年齢に見えた。

「おめでとうございます」と、わたしは代り映えしない挨拶をした。

「みなさんにお祝いしていた

だいて光栄です。これからもよろしくお願いいたします」と男の妻は答えた。特につなぐ言葉も用意していなかったもので、それだけの会話だった。

まもなく祝辞に移った。同人と、それ以外の客が交互に祝辞を述べた。時間の制約もあるから全員がしゃべるわけではないが、わたしは古い付き合い合いなので、話すメンバーの一人に入っていた。

同人の祝辞の内容は、自選集の中の作品を取り上げて、褒めることが多かった。同人以外の客は「まさか小説を書いているとは知らなかった」とか、文学とは関係のない職場にいたころのエピソードなどを話した。

わたしの番になった。わたしも他の同人と同じように、

作品の一つを取り上げて言うつもりだった。屏風の前に立ち、マイクを握った。その時に偶然、主賓の男の妻と視線が合った。男の妻はちよつと首を傾げて、ほほ笑んだ。わたしの妻のほほえみと、よく似ていた。

わたしの心底のスイッチが切り替わってしまった。わたしの出版記念会から二十年は経つ。その時、今日の主賓の男の、わたしへの祝辞を思い出した。男はわたしの本を片手にして、

「こんなに下手な小説ばかりを集めた本は、これまでに見たことがない」

と言い、本の表紙を、空いている方の手でつまはじきしたのだ。座から「わあ」とも「おう」とも言えぬ声が上が

った。わたしは「ひどい」と思ったが、男の悪ふざけだろうとも思った。二十年も経つと、下手な小説ばかりと、他人から言われなくても思う――

がである。わたしの妻は、亡くなるまで、出版記念会のこの男の「祝辞」を恨んでいた。今日の主賓の男と同じように、親戚、親兄弟がいたからだ。配慮してもいいはずだ。

お世辞でなくてもいい。他に言いようもあるだろうと言っていた。お世辞も度を過ぎると、あまりいい気分はしない。小説のことはよく分からない

が、あの場に誠実に向き合ってくれたら、あんな言い方にはならないだろうとも、妻は言っていた。小説が分からない人にも、どこが良くないのか納得できるように言ってほ

しいとも言っていた。

二十年という年月は、主賓の男の小説も磨いて来た。当時のわたしの小説よりも、はるかにうまい。

マイクを持ったままの沈黙の時間に気付いた。みんなわたしの方を見ていた。わたしは壇を降り、近くに立っていた同人の手から本を借りた。

登壇して、本とマイクを一緒に持ち、空いた手で表紙をつまはじきしてから言った。

「こんなにへたくそな小説ばかり集めて、どうしようというんだ」

言い終わった途端、ふいに涙が流れた。主賓の男の妻の顔が歪んでいるのが見えた。涙のせいで歪んで見えるのか、本人の表情が歪んでいるのか、見分けがつかなかった。

## 19春闘

2019年春闘が始まりました。私たち労働組合は、賃金の生計費原則を土台にした要求づくりで大幅賃上げの実現を目指します。

賃金の生計費原則とは、賃金は企業利益の分け前ではなく、生計費であることです。毎日元気で健康に働けるための衣食住がまかなえる、結婚し子供を産み育てることができ家族が生活できる、労働者がきちんと仕事ができる教育訓練の費用をまかなえる賃金でなければなりません。

90年代以降では、春闘解体の攻撃が強まり、賃金の生計費原則が否定され、賃金は成果や業績で決まるという考え方が押しつけられてきました。そのため私たち労働者の

賃金は低く抑えられ、実質賃金は下がり続けています。いまこそ、すべての労働者の大幅賃金引き上げが必要です。

私たち労働組合は、春闘で賃上げ要求をつくる上で日々の生活を見つめなおし、健康で文化的な生活をおくるためにあといくら必要なのかを考えて要求を決めています。さらに、私たち労働組合だけではなく、職場で働く従業員みなさんの意見も参考にして団 thể交渉を進めたいと考えています。そのために、私たちセガグループ分会のホームページで春闘アンケートを実施していますので、ご協力お願いします。

是非、みなさんの率直な意見をお聞かせください。

### 労働組合に

入りませんか！

職場でいじめ（パワハラ）をうけている・自由に休みがとれない・残業代が支払われない・突然会社から解雇と言われた・賃金が上がらないなど、職場での悩みはありませんか。そんなときは一人で悩まずに、私たち労働組合にご相談ください。

私たちJMITU（日本金属製造情報通信労働組合）は、全国組織の労働組合です。正社員でなくても、パートやアルバイト、派遣社員の方でも加入できる組合です。働きやすい職場をつくるには労働組合が必要です。ぜひ職場に労働組合を作りましょう！

労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534

ホームページ <http://www6.plala.or.jp/JMIUOOTA/>

セガグループ分会ホームページ <http://jmitusega.chips.jp/>